

Information

布が語る世界の様相

企画展 躍動するインド世界の布

「場をくぎり、人をつなぎ、神と人の媒介となり、政治をうごかし、グローバル経済をうみだす」——多文化、多宗教、多言語のインド社会においては、自分のアイデンティティ（帰属やステータス）を示すために布が用いられてきた。本展示では、衣装のみならず、人生儀礼の贈与、神々への奉納、社会運動のシンボルなどのさまざまな場面で使われる布を紹介。文化性、民族性、宗教性が織り込まれた、世界共通の自己表現ツール「布」のメッセージを聞いてみませんか。

会期：2021年10月28日（木）～2022年1月25日（火）

会場：国立民族学博物館本館企画展示場
（大阪府吹田市千里万博公園 10-1）

開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで）

観覧料：一般580円（490円）、大学生250円（200円）

*高校生以下の方は無料。20名以上の団体/リピーターは1)料金を適用

休館日：水曜日、年末年始（2021年12月28日～2022年1月4日）



インド、西部のグジャラート州カッチ県の港町ムンドラー郊外にある聖者墓に掛けられたダルガー・チャートル。中央の布は赤く染められモスクの形にアッラーの美名がプリントされている。2011年、鈴木英明撮影



© Les Films du Temps Scellé - Les Docs du Nord 2019

ありのままの島民の姿

クナシリ

上映期間：12月4日（土）よりシアター・イメージ
フォーラムほか全国順次公開

監督：ウラジーミル・コズロフ

撮影：グレブ・テレシヨフ

制作：デヴィッド・フーシェ

配給：アンブラグド

北方領土4島からの強制退去が行われて70年以上。国後島では、学校建設支援などの政策によりロシア人居住者数が増加し、島の「ロシア化」が進んでいる。ロシア政府や軍関係者、国後島を故郷としここに埋められたいと願う女性、北方領土を行き来するフェリーのオーナー、日本人がいたときを思い出し、雇用を創出するために日本人との共存を望む年配男性などの個人個人にスポットライトを当てた本作。フランス在住の旧ソ連出身監督が、日本の記憶が薄れつつある国後島の実像を描いたドキュメンタリー。